



教育目標 たくましく生き抜く力と豊かな人間性の育成

学校だよりふれあい

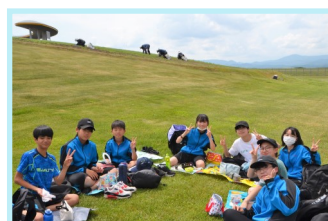
令和5年
7月26日
発行

1学期を振り返って

校長 中間 靖之

4月6日（木）に始業式を行い、7日（金）の入学式で109名の新入生を迎え、全校生徒329名で令和5年度がスタートしました。過ぎてしまえば、あっという間に感じる約3ヶ月半の1学期も7月26日（水）に終業式を迎え、25日間の夏休みに入ります。

1学期を振り返ってみますと、まず4月26日（水）から3泊4日の青森への修学旅行では、まだ新型コロナウイルス感染拡大に対する緊張感が強くありました。5月8日（月）以降5類感染症として移行し、濃厚接触者としての特定がなくなりました。気温差もあり、体調を崩さないように注意しながら5月末の体育祭も無事終了することができました。1年生の遠足も天気が心配でしたが無事終了し、中体連や2年生宿泊研修等、各種行事を実施することができ、ほっと一安心しております。しかし、感染症がなくなったわけではないので、拡大防止を意識した行動が必要です。また、熱中症などの暑さ対策で、人がいない場所や話をしない時はマスクをはずすなど、考えて行動することが必要です。どうぞ、ご家庭でも健康面・安全面につきましてはご留意をお願いします。



4月20日（木）に行われた生徒総会では、森山生徒会長が「よりよい学校生活を送るために、皆で協力しましょう！」と話しました。集団生活を送る学校では、人を思いやり、お互いに気持ちのよい学校生活を送ることができるように考えて行動することが必要です。毎朝行っている挨拶運動では、清々しい挨拶が交わされます。笑顔で挨拶されると、とても気持ちがよくなります。また、野球部の生徒は毎朝校舎内を清掃しています。きれいな校舎で気持ちのよい学校生活が送れることに感謝しています。

中体連大会では、卓球部・バドミントン部・陸上競技部・体操競技・柔道・水泳でも全道大会に出場する生徒がいます。それぞれの目標実現に向け、練習の成果を発揮してほしいと願っています。



本校の目指す生徒像の一つに「志をもって粘り強くやりぬく生徒」があります。目標をもって、その実現のために努力を継続する生徒です。「継続は力なり」という言葉がありますが、今後も目標実現に向けて努力する生徒の姿を応援していきたいと思えます。



明日からの夏休みは、交通事故などには十分気を付けるとともに、夏バテなどで体力を低下させないように、生活リズムなどにも配慮してほしいです。特に3年生は、希望の進路に向けて、1・2年生時に学習した内容や1学期に学習したことを復習するなど、学習時間の充実が重要です。有意義な夏休みとなるよう願っています。

結びになりますが、この1学期、本校の教育活動に対し、保護者・地域の皆様や関係機関の方々大変お世話になり、ありがとうございました。2学期もどうぞよろしくお願い申し上げます。



全体懇談では「評価・評定」及び「夏休みの生活」について説明を行いました。

初戦、4-3伊達中、2回戦、4-2帯広第八中、準々決勝、0-5北見光西中で、見事、全道ベスト8に輝きました。



7月15・16日 野球 全道大会がはじまりました!



各校の特色ある教育活動について、真剣な眼差しで耳を傾けていました。

～「認められて(自信をもって)育つ」～



「自尊感情」は、心理学用語 Self Esteem の訳語として定着した概念です。一般的には、「自己肯定感」、「自己存在感」、「自己効力感」等と、ほぼ同義で用いられ「自分への自己評価に対して肯定的な評価を抱いている状態」を指すものとされています。

「自己評価」を基本とすることから、「自尊感情」を高めようと、大人が単に褒める機会を増やしたとしても、思春期真っ只中の中学生には、効果は期待できないかもしれません。褒める以前に叱ったり行動を改めさせたりする必要がある場合「どこを褒めようか…」と悩むこともあります。たとえ、大人が褒めることで自信を付けさせることができたとしても、実力以上に過大評価をしてしまうことや、周りの子供からの評価を得られずに元に戻ってしまうこともあります。また、自他の評価のギャップにストレスを感じてしまうということが起きることも考えられます。

「規範意識」を大切にしようとする日本人の場合、実は、諸外国に比べ、自己の評価よりも他者からの評価による「自己有用感」を高めることが「自尊感情」を高めることに影響すると言われています。「人の役に立った、人から感謝された、人から認められた」という「自己有用感」は、自分と他者(集団や社会)との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる「自己に対する肯定的な評価」です。両者は図に示した関係にあり「自尊感情が高い→自己有用感が高い」ということにはなりません。



2000年代に入り、生徒指導プログラムの開発を行う研究者たちは、当時の子供たちの一番の問題を、社会性の基礎となる「人と関わりたいという意欲そのものが低下しているところにある」と考えました。そのことが人間関係の希薄化を生んだり、他人を平気で傷つけたり、ルールを守らなかったり、集団への参加を妨げたり、といった現象になっていくのではないかとという仮説を立てたのです。調査研究を行った結果、報告書で効果的な解決策として提言されたのが「異年齢集団の交流活動の推進」によって「自己有用感」を育むことでした。その知見は、現在の小・中学校の学習指導要領(国が示す教育課程の基準)における「異年齢集団との交流」、「他者との協働による学び」につながっています。(本校の教育の重点教育目標「知・徳・体の調和のとれた育成を、対話的な学びを通して目指すこと」にもつながるものです。)

子どもを「褒めて(自信をもたせて)育てる」ことは確かに大切です。しかしながら、「褒める」と「認める」は同義ではありません。子供の基準に沿ってどこまで達成できたのかを適切に評価することが「認める」という行為では重要になるからです。(「よくできましたね」と大人に言われ、子供たちは時に「？」というリアクションをすることがあります。これは、自分の基準にないことを褒められているからかもしれません。)

子供自身が目標や工夫する点、努力する点などを見据え、他者とのかわりを通し「価値付けられ、認められて(自信をもって)自ら育つ」という発想は、子供の主体性の伸長や、社会性の涵養(かんよう:水がじわりと自然に土にしみこむように、徐々に養い育てること)につながるものと考えられます。東神楽中学校では、今後も「自己有用感」に裏付けられた「自尊感情」を高める取組を学校全体のあらゆる教育機会を通して大切にしていきます。

《7/7~8 上川代表決定戦の結果》

- 【女子バスケ部】初戦敗退 46-61 忠和中
- 【卓球部】男子団体戦: 決勝トーナメント
初戦敗退 0-3 旭川中
女子団体戦: 予選リーグ敗退
男子個人戦 **朝妻、善志-ベスト8 (全道)**
織田、天野(海)、天野(風)、松倉-予選ブロック敗退
女子個人戦 **清水-3位 (全道)**
中井-予選ブロック敗退
- 【ソフトテニス部】岩城・吉本ペア-1回戦敗退
- 【男女バドミントン部】
団体戦 男子-2回戦敗退 女子-2回戦敗退
個人戦 シングルス
男子 本村、青山、狩野-1回戦敗退、
女子 菅原(く)、菅原(瑚)-1回戦敗退
個人戦 ダブルス
男子 佐藤・新関-2回戦敗退
西畑・蒔田-2回戦敗退
原・千葉-1回戦敗退
女子 **阿部・佐藤-準優勝 (全道)**
中村・宮本-準々決勝敗退
真鍋・保志-1回戦敗退
- 【剣道】吉田-2回戦敗退



全道大会! 健闘を祈ります!

陸上部: 7/24~26 釧路市
バドミントン部: 8/1~3 北見市
卓球部: 8/4~6 八雲町



～行事予定～

- 1日(火) 夏の地域未来塾～3日
- 10日(木) 学校閉庁日
- 11日(金) 山の日
- 14日(月) 学校閉庁日～16日(水)
- 18日(金) 職員会議
- 19日(土) 上南P連大会
- 21日(月) 2学期始業式
- 23日(水) 校内研修
- 25日(金) 授業公開日・学校運営協議会
P T A本部役員会
- 28日(月) 常任委員会 教育実習開始
- 29日(火) 学校祭特別時間割開始
- 30日(水) 貯金日・校内点検日
- 31日(木) 後期生徒会役員選挙告示